現金過不足

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　現金過不足の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

③　帳簿残高を実際有高に合わせることに注意しよう！

主な勘定科目

「現金過不足」勘定

「現金」勘定（資産）

「雑益」勘定（収益）

「雑損」勘定（費用）

（１）現金過不足とは？

現金の帳簿残高（ちょうぼざんだか）（現金勘定の残高）と実際有高（じつさいありだか）（実際の現金の金額）が一致しないことがあります。この帳簿残高と実際有高の差額を**現金過不足**（げんきんかぶそく）といいます。

現金過不足が生じた場合、実態に合わせるため、帳簿残高を実際有高と一致させる必要がありますが、不一致原因がわからないため、一時的に「**現金過不足**」勘定で処理します。

不一致原因が判明した場合には、「現金過不足」勘定から適切な勘定へ振り替えます。

（２）期中に現金過不足が判明したとき

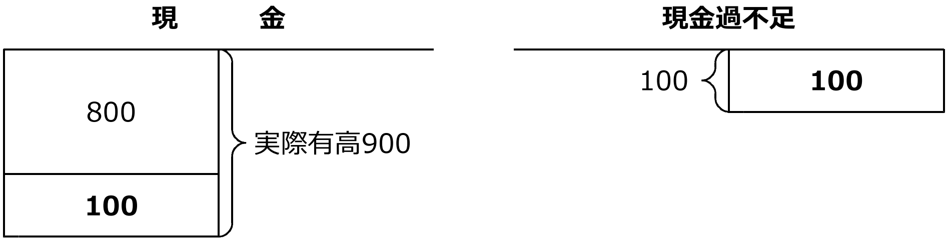
① 帳簿残高 ＜ 実際有高

例題　**現金残高が800円であったところ、実際有高は900円であった。**

帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を100円増加させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の貸方に記入します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	**100**	**現金過不足**	**100**

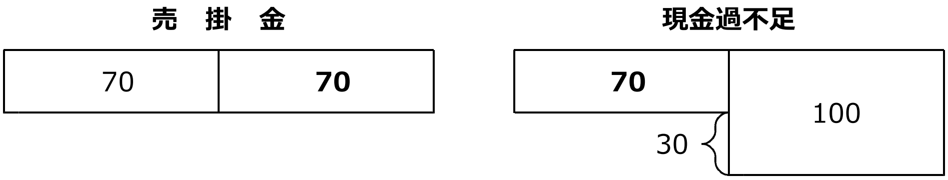
この結果、現金勘定の残高は900円となり、実際有高と一致します。



例題　**現金過剰額100円のうち、70円は売掛金の回収であったことが判明した。**

「現金過不足」勘定から「売掛金」勘定（資産）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	**70**	**売掛金**	**70**



②　帳簿残高 ＞ 実際有高

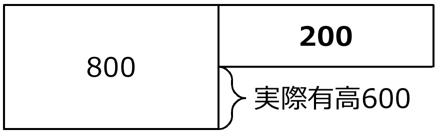
例題　**現金残高が800円であったところ、実際有高は600円であった。**

　帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を200円減少させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の借方に記入します。

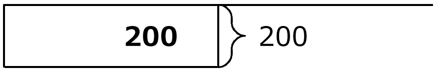
借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　金　過　不　足	**200**	**現　　　　金**	**200**

　この結果、現金勘定の残高は600円となり、実際有高と一致します。

現　　金



現金過不足

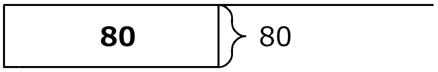


例題　**現金不足額200円のうち、80円は切手代で使用していたことが判明した。**

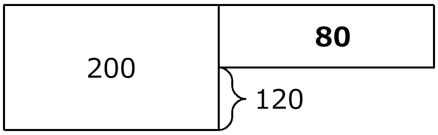
「現金過不足」勘定から「通信費」勘定（費用）に振り替えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
通　　信　　費	**80**	**現　金　過　不　足**	**80**

通　信　費



現金過不足



（3）原因が判明しなかったとき

現金過不足の不一致原因が判明しなかった時は、「現金過不足」勘定が貸方残高（現金過剰）の場合、「**雑益**」勘定（**収益**）に振り替えます。また、「現金過不足」勘定が借方残高（現金不足）の場合、「**雑損**」勘定（**費用**）に振り替えます。

この処理は通常、**決算整理**で行います。したがって、「現金過不足」勘定は他の勘定に振り替えられますので、決算整理後には「現金過不足」勘定の残高はゼロとなります。

① 現金過不足勘定の貸方残高（現金過剰）

例題　決算において、現金過剰額100円の原因が判明しなかった。

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現　　金　100 / 現　金　過　不　足　100

現金過不足

	100

（貸方残高 100）

「現金過不足」勘定から「雑益」勘定（収益）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	**100**	**雑益**	**100**

雑　　益

	100

（貸方残高 100）

現金過不足

100	100

②　現金過不足勘定の借方残高（現金不足）

例題　**決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。**

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現　金　過　不　足　　200 / 現　　　金　　200

現金過不足

200	200

「現金過不足」勘定から「雑損」勘定（費用）に振り替えます。

借方科目	金　　額	貸方科目	金　　額
雑　　　　損	**200**	**現　金　過　不　足**	**200**

雑　　損

200	200

現金過不足

200	**200**

小口現金

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　小口現金の内容を理解しよう！

②　発生と消滅の仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「小口現金」勘定（資産）

（1）小口現金とは？

会社では文房具を購入するなど日常業務で発生する少額の支払に備えて、各部署に少額の現金を用意しておき、この現金で支払を行うことがあります。この少額の現金を**小口現金**といいます。小口現金は「**小口現金**」勘定（**資産**）で処理します。

前渡する金額を一定とする**定額資金前渡制度**（**インプレスト・システム**ともいいます）と必要に応じて随時補給する制度がありますが、通常は定額資金前渡制度が採用されます。

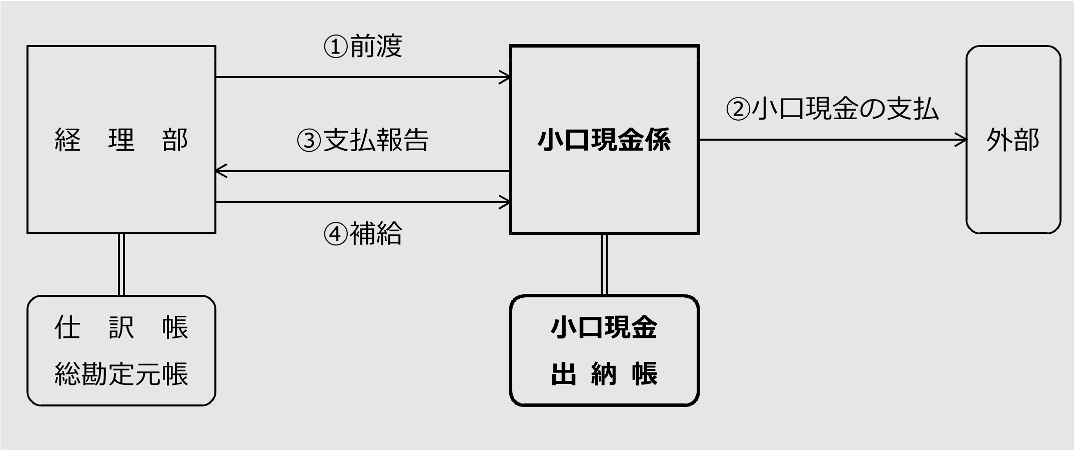
定額資金前渡制度は以下の流れで行われます。

① 経理部（または会計係）は小口現金係（または用度係、小払係）に少額の金額を渡します。

② 小口現金係は日常の少額の諸経費を小口現金から支払います。そして、その支払明細を**小口現金出納帳**に記入します。小口現金出納帳は小口現金の支払明細を記帳する補助簿（補助記入帳）です。

③ 一定期間ごとに小口現金係は経理部に支払報告を行い、それに伴って経理部は仕訳を行います。仕訳を行うのは、小口現金係でなく経理部なので注意して下さい。

④ 経理部は小口現金係に小口現金を補給し、小口現金の金額は一定の前渡額となります。



① 小口現金の前渡時

例題 **1月1日 小口現金2,000円を小切手を振り出して小口現金係に前渡した。**

小口現金という資産が増加したので「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。また、小切手の振出は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
小 口 現 金	**2,000**	**当 座 預 金**	**2,000**

② 小口現金で支払った時

例題 **小口現金係は、1/9に電車代300円、1/15に切手代150円、1/21にお茶菓子代100円、1/25に切手代50円を小口現金で支払った。**

小口現金係が諸経費を小口現金で支払っても、経理部は報告を受けていないので、仕訳は行いません（仕訳を行うのは経理部です）。小口現金係は小口現金の使用明細を以下のように小口現金出納帳に記入します（記入の仕方は後で学習します）。

小 口 現 金 出 納 帳

受 入	日 付		摘 要	支 払	内訳		
					旅費交通費	通信費	雑 費
2,000	1	1	小口現金受け入れ				
		9	電車代	300	300		
		15	切手代	150		150	
		21	お茶菓子代	100			100
		25	切手代	50		50	
			合 計	600	300	200	100
600		31	小口現金受け入れ				
		〃	次月繰越	2,000			
2,600				2,600			
2,000	2	1	前月繰越				

③　小口現金係から支払報告があった時

例題　**小口現金係から1月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子代100円）を受けた。**

経理部は小口現金係からの支払報告に基づき、使用した分は適切な勘定で処理します。また小口現金という資産が減少したので「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。なお、電車代は「旅費交通費」勘定（費用）、切手代は「通信費」勘定（費用）、お茶菓子代は「雑費（ざつぴ）」勘定（費用）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	**300**	**小口現金**	**600**
通信費	**200**		
雑費	**100**		

④　小口現金の補給時

例題　**1月31日 小口現金を補給するため小口現金係へ600円の小切手を振り出した。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	**600**	**当座預金**	**600**

⑤　支払報告と小口現金の補給が同時であった場合

例題　**小口現金係から1月分の小口現金の支払報告（電車代300円、切手代200円、お茶菓子100円）を受け、ただちに小切手600円を振り出して小口現金を補給した。**

支払報告を受けたと同時に小切手を振り出して補給した場合、小口現金の減少と小口現金の増加が同額であるため、「小口現金」勘定（資産）を用いずに処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	**300**	**当座預金**	**600**
通信費	**200**		
雑費	**100**		

この仕訳は以下の２つの仕訳を１つにまとめたものです。

旅費交通費	300	小口現金	600
通信費	200		
雑費	100		
小口現金	600	当座預金	600

（２）小口現金で使われる勘定科目

小口現金の主な支払内容と勘定科目は以下の通りです。

勘定科目	支払内容
旅費交通費	電車代、バス代、タクシー代、飛行機代、宿泊代など
通信費	切手代、はがき代、電話代など
水道光熱費	水道代、電気代、ガス代など
消耗品費（しょうもうひんひ）	文房具代、コピー用紙など
雑　費	お茶菓子代、その他どの勘定にも該当しない項目

現金預金 問題

問題1 以下の取引に関して、(1)仕訳を行いなさい。また、(2)当座預金勘定への転記を行いなさい。なお、日付は省略すること。

① 当座預金口座を開設し、80,000円を普通預金から振り込んだ。また、小切手帳の交付を受け、手数料として800円を現金で支払った。そして、普通預金口座から定期預金口座へ50,000円を預け入れた。
② 広告宣伝費2,000円の支払いのために、小切手を振り出した。
③ 商品40,000円を売り上げ、代金は得意先振出の小切手を受け取った。
④ 商品30,000円を売り上げ、代金は当社振出の小切手を受け取った。
⑤ 商品25,000円を仕入れ、代金は得意先振出の小切手で支払った。
⑥ 商品50,000円を売り上げ、代金は送金小切手を受け取った。
⑦ 小口現金係から今月の支払報告（旅費交通費1,000円、通信費1,500円、雑費400円）を受けた。
⑧ 小口現金を補給するために、小口現金係へ2,900円の小切手を振り出した。
⑨ 期中に現金の実際残高が帳簿残高より少なかったため、現金過不足勘定で処理していた1,000円のうち、700円は支払手数料の記帳漏れであることが決算日に判明した。残額は不明であるので、適当な勘定に振り替える。
⑩ 小口現金係から、旅費交通費3,000円、消耗品費2,000円、雑費1,000円の小口現金の使用について報告を受けたため、ただちに小切手を振り出して資金を補給した。

問題2 以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

④ 決算において、X銀行の当座預金口座が当座借越100,000円となっているので、適切な勘定に振り替える。ただし、当社は複数の金融機関を利用しており、他の金融機関にも当座預金口座を開設しているため、口座ごとに勘定を設定している。なお、当社では当座借越勘定を用いている。
⑤ 期首において、X銀行の当座預金口座における当座借越100,000円を適切な資産の勘定へ再振替仕訳を行った。
⑥ 月末の金庫を実査したところ、硬貨10,000円、紙幣20,000円、得意先振出の小切手35,000円、約束手形40,000円、郵便切手500円が保管されていた。現金の帳簿残高は70,000円であった。不一致原因を調べたが原因は判明しなかったが、調査は継続して行うこととした。

現金預金 答案用紙

問題1

(1) 仕訳

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				

(2) 当座預金勘定の記入

当 座 預 金

日付	摘　要	借　方	日付	摘　要	貸　方
省略			省略		

問題2

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				

現金預金 解答解説

問題1 **解答**

(1) 仕訳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金	80,000	普通預金	80,000
	支払手数料	800	現金	800
	定期預金	50,000	普通預金	50,000
②	広告宣伝費	2,000	当座預金	2,000
③	現金	40,000	売上	40,000
④	当座預金	30,000	売上	30,000
⑤	仕入	25,000	現金	25,000
⑥	現金	50,000	売上	50,000
⑦	旅費交通費	1,000	小口現金	2,900
	通信費	1,500		
	雑費	400		
⑧	小口現金	2,900	当座預金	2,900
⑨	支払手数料	700	現金過不足	1,000
	雑損	300		
⑩	旅費交通費	3,000	当座預金	6,000
	消耗品費	2,000		
	雑費	1,000		

(2) 当座預金勘定の記入

当座預金

日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
省略	普通預金	80,000	省略	広告宣伝費	2,000
	売上	30,000		小口現金	2,900
				諸口	6,000

問題1 **解説**

(1) 仕訳

① 当座預金口座に預け入れた場合、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。なお、銀行へ支払う手数料を当社が負担した場合は「支払手数料」勘定（費用）で処理します。また、定期預金口座に預け入れた場合、「定期預金」勘定（資産）の増加として処理します。

② 小切手を振り出した場合、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

③ 他社振出小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

④ 当社振出小切手を受け取った場合、当座預金の減少の取消しとして、「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑤ 他社振出小切手を支払手段に用いた場合、「現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑥ 送金小切手を受け取った場合、「現金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑦ 小口現金係から小口現金の支払報告を受けたときに、「小口現金」勘定（資産）の減少として処理します。

⑧ 小口現金を補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の増加として処理します。

⑨ 「現金過不足」勘定から判明した分は「支払手数料」勘定（費用）に振り替え、不明分は「雑損」勘定（費用）に振り替えます。

⑩ ただちに小切手を振り出して小口現金の補給した場合、「小口現金」勘定（資産）の減少および増加の処理をしないで、「当座預金」勘定（資産）の減少として処理します。

(2) 当座預金勘定の記入

仕訳にもとづいて、正しく転記できるようにして下さい。特に、摘要欄に相手勘定科目を記入する点に注意して下さい。また、相手勘定科目が複数の場合には「諸口」と記載する点にも注意して下さい。

問題2　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金X銀行	100,000	当座借越	100,000
②	当座借越	100,000	当座預金X銀行	100,000
③	現金過不足	5,000	現金	5,000

問題2　**解説**

①　本問では当座預金に関して、口座ごとに勘定を設定しているので、「当座預金X銀行」勘定（資産）を用いて仕訳を行います。

　当座借越については「当座借越」勘定（負債）に振り替えます。

②　期中は当座借越も「当座預金X銀行」勘定（資産）で処理するため、前期の決算整理仕訳の反対仕訳（再振替仕訳）を期首に行います。

③　現金の実際有高は65,000円（=硬貨10,000円＋紙幣20,000円＋得意先振出の小切手35,000円）と帳簿残高70,000円の差額5,000円を「現金過不足」勘定に振り替えます。また、帳簿残高より実際有高が少なかったので、「現金」勘定（資産）の減少として仕訳を行います。

　なお、約束手形は「受取手形」勘定（資産）で、郵便切手は「貯蔵品」勘定（資産）で処理しますので、簿記上の現金ではありません。